

一般質問通告書

受領日時 令和4年2月28日 午前10時15分

5番 氏名 椎名 志保

質問項目	質問の要旨
1.喫緊の課題である少子化へ思い切った施策を。	<p>(1)当町の出生数は令和元年度 25 人、2 年度 27 人、今年度は1 月末現在で 19 人である。町の危機的状況をどうとらえるか。</p> <p>(2)これまで妊娠・出産・子育てに対し、様々な施策を行ってきたが少子化の改善に至っていない。</p> <p>以前、生まれた子どもに対し、入園・入学の節目節目に、合わせて 1,000 万円を 20 歳まで支給しては、といった提案があったが、そのくらい思い切った施策が今こそ必要ではないか。</p> <p>(3)思い切った施策を講じるためには財源の確保が不可欠だ。たとえば子育て支援に特化したふるさと納税の使途の明確化で、一部応援を募るのはいかがでしょうか。</p>
2.もりやまこども園の今後の運営について。	<p>(1)当町の子どもたちの教育・保育を担ってきたもりやまこども園。その経営母体である「社会福祉法人キッズハウスもりやま」が今年創立 50 周年を迎える。更なる発展を期待するところだが、町の著しい少子化に伴い、園児数の減少で厳しい経営が続いている。園児数の減少はこども園の努力だけで解決できるものではない。経営の安定は保育の充実にもつながり、保育料収入の増収、経営の安定に向けた改善策を町はどのように考えるか。</p> <p>(2)園の経営は平成 30 年度以降、毎年赤字が続いており、積立金を取崩して運営している。積立金の枯渇は避けるべきであり、入園児を増やして経営安定につなげることが最善ではないかと考える。そのためには園を利用したいと望む誰もが保育料の負担を気にせず、預けられる環境づくりが必要だ。町単独で 3 歳以下（未満児）の保育料無償化を実施し、保護者の負担を町が肩代わりし、より子育ての負担軽減に努めていただけないか。</p> <p>(3)もりやまこども園本園は築 18 年が経過し、園舎の老朽化が進んでいる。屋根・外壁・園庭側木製テラス・エアコン・トイレ等の水回りの修繕が、小破修繕では対応できない状況である。園舎施設・設備の大規模改修となると、事業者である社会福祉法人キッズハウスもりやま単独では実施不可能であり、町の援助が必要だ。国の補助金を活用することになるが、町の負担分を理解し、進めるべきではないか。</p> <p>もりやまこども園の大規模改修に対する町の考えは。</p>

<p>3.企業誘致、雇用の確保について。</p>	<p>(1)洋上風力発電事業には漁場など生態系への影響や建設時の打音による住民への影響、風車が立ち並ぶ無機質な景観などに対し、未だ議論がなされているが、県が洋上風力発電事業にいよいよ本腰を入れ乗り出すことで、今後一大産業となることが予想される。洋上風車の建設にあたっては中核部品を地元企業が生産できる体制づくりに取り組むとしており、マーレエレクトリック秋田工場を引き継いだ武藤電子工業はじめ周辺の企業がこの事業に参入し、雇用を拡大するといった動きはないか。</p> <p>また、県は再生可能エネルギーを生かし、デジタルデータの蓄積や処理を行う「データセンター」の誘致を県内自治体と連携して進める方針を明らかにしたが、このことに町として手を上げ、誘致を目指すべきではないか。</p> <p>(2)洋上風力発電事業またその周辺経済に、今後多くの雇用が生まれると期待されるが、能代市、三種町、男鹿市、潟上市、秋田市は通勤圏内であり、住まいへの補助や子育て支援などを充実させ、ベッドタウンを目指すことも人口増の手立てになり得るのではないか。</p> <p>求人情報をホームページ上や町広報に折り込むなどし、町からも発信して帰郷を望む本人や実家の家族が目にすることで、Uターンにつなげることができないか。</p>
<p>4.農林業の今後の取り組みについて。</p>	<p>(1)森林環境譲与税による森林経営管理制度の取り組みが進んでいるが、譲与税の用途については課題が残るところである。平成30年の豪雨により、林道2路線に路帯崩落の被災があり、関係3集落から復旧の要望が出ているが未だ工事には至っておらず、通行止めになったままだ。山林の所有者からは「森林を後の代に引き継ぐために山に入りたい」との声も聞かれ、山林継承のための林道復旧は譲与税の用途になり得ないか。</p> <p>(2)先日、富田集落で「ほ場整備を考える会」が開かれた。地域振興局農林部農村整備課職員より、ほ場整備の流れや事前に必要な作業など具体的な説明があり、閉会後は「最初は反対であったが必要だと感じた」といった意見が聞かれた。今後各地区で、各集落で開催していくべきと考えるが、町の計画はどうなっているか。</p>